



1・2年生

今の生活になれてきた。
傍線部の漢字をどう書きますか？

「なれる」には主に「慣れる」と「狎れる」があります。この二つはどう違うのでしょうか。

「慣れる」は「りっしんべん」、つまり心が立っているので、理性をしっかりと持ってその状態に順応しています。一方「狎れる」は「けものへん」、ここには理性がなく、礼を失ってなれなれしくする様子を表します。

1, 2年生のみなさんは、学校生活にも「なれ」、もはや学校の中心となって行動する存在となっています。皆さんの「なれ」はどちらの「なれ」でしょうか。

今年度も半分が過ぎました。この時期、「狎れ」ている人はとかく目標を見失いやすいようです。ただ漫然と日々を過ごし、授業を受け、部活に行き、時間を過ごすだけになりやすい。

「慣れ」ている人は、志が立っているから、目標をもって一つひとつの行動をとることができるわけです。「〇〇大学に行く」「〇〇専門学校に行く」ことを大目標にして、毎日の授業や課題の中で何かを学ぼうとする。目標（志）が日々の行動を決めるわけです。

では、「狎れ」ずに「慣れ」るために、今、どうすればよいのでしょうか？

「慣れ」ている人がやっているのは、志を立てること、つまり目標を持つということです。「慣れ」るためには目標を持てばよいのです。

これから、自分の将来、進路について考える時間的余裕も増えてきます。これまでより深く進路について考えてみてはどうでしょうか。

具体的には、大学や短大、専門学校のホームページにアクセスしてみる、目標としている大学などに行っている身近な先輩に話を聞いてみる、または実際にその学校に行ってみる、などさまざまなアプローチができるはずですが、少しでも深く自分の進路について考えること、その機会を増やすことが、次学年の自分の動きを変えてくれます。いや、その前に、今の自分の「なれ」に刺激を与え、「慣れ」た自分を作ってくれるはずですが。

3年生

いよいよ高校生活も残り5ヶ月となりました。目指す進路に向けて、ただひたむきに頑張っていることでしょうか。

高い目標に向かって勉強しているみなさんは、この時期後ろを振り返ってしまいがちです。やればやるだけ不安を覚え、ついつい弱気になってしまう先輩を何人も見てきました。みんな陥る不安ですが、後ろを向いても不安は大きくなるばかりです。いままでの、そしてこれからの自分を信じて、前を向いてやるだけです。

高い山は、遠くにいると山頂が見えますが、登り始めると目標とする山頂が見えなくなります。そして、突然目の前にゴールが飛び込んでくるもの。自分が着実にゴールに近づいている時ほど、不安になるのかもしれない。

逆に、低い山ほど迷いやすいそうです。人間の心理も作用しているのでしょうか、相手を侮ることがないようにしたいものですね。

与えられた時間も、残された時間も、みんな平等です。その時間を「もうこれだけしかない」と思うのか、「まだ十分にある」と思うのか、今の状況をどう捉えるかだけでも行動に大きな差が生じます。残された時間をどう過ごすか。不安を減らすためにも「今」できること、やるべきことに時間を費やす。そうやって不安を自信に変えていきましょう。

目標はそれぞれ異なると思いますが、自信をもって取り組みましょう。自信を持ってないときは、これまで切磋琢磨してきた友人と励まし合うことです。

受験を体験した生徒たちがよくこう言います。――「勉強がきつい時、隣で一生懸命勉強している友人を見たら勇気が湧いてきて、もうひと頑張りできた。」

センター試験まで残り100日と少し。試験会場に持っていけるのは参考書ではなく、「これだけやったんだ」という自信だけです。皆さんの奮闘に期待します。

大学・短大、専門学校の入試はいつからスタートするものだと思いますか。3年生の中には、すでに試験を受けた人、試験を間近に控えている人がいます。大学・短期大学入試の受験にあたって決めなければならないのことは、主に二つ。「どの学校を受験するか」として「どの入試を受験するか」です。実は、入試にはさまざまなバリエーションがあります。今回は、基本となる4種類の入試の種類を紹介します。

入試種類別の受験スケジュール

入試形態	出願時期	試験日
AO入試	8月～	9月上旬～
推薦入試	10月上旬～	10月下旬～
一般入試	12月中旬～	1月下旬～ 3月末日
センター試験	10/1～12	1/19～20

《AO入試》

AO入試は、大学が求める人物像（アドミッション・ポリシー）に合う人物を採用するための入試。求める人物像は大学・学部学科によってさまざま、**「リーダーシップがある」「新しい環境に挑戦する意欲がある」**など資質や個性について定められている場合もあれば、特定の技術や資格、海外経験などが求められる場合もある。

AO入試は高校からの推薦が必要ないため、条件を満たせば誰でも出願でき、志望校に直接熱意をアピールすることができる。選考では**「求める人物像と合っているか」「入学への強い意欲があるか」「大学・学部学科のことをよく理解しているか」「入学後の明確な目標があるか」**などが重視され、大学・学部学科にふさわしいかが審査される。

AO入試では、自分がその大学が求める学生像に合うことをうまく伝えられるかどうかのポイントになる。選考方法は書類審査や小論文、面接などが一般的だが、セミナーやプレゼンテーション、模擬講義などバラエティ豊富な試験・課題がある。自分のことをよく見てもらえる反面、万が一不合格だった場合は、他の試験に向けて対策を練ったり受験勉強をしたりする時間が少なくなるため、推薦入試や一般入試も視野に入れておいたほうが良い。基礎的な学力を測るため、成績基準や学力試験を設ける大学が多い。募集人員は少なく、狭き門といえる。

《推薦入試》

推薦入試は、高校での成績や取り組みをもとに、受験生の意欲や個性を測る入試。これまでの頑張りや自分の強みを評価してもらえるチャンス。

出願条件は、学業の成績基準が定められたり、大会での上位入賞や資格の保有などの規定があったりと、大学・学部学科によってさまざま。さらに専願を条件としている大学が多く、その場合は併願は不可で、合格したら必ず入学しなければならない。

選抜方法は、書類選考・小論文・面接が主流。ただし、センター試験を課す場合も多い。

《一般入試》

センター試験と2次試験の両方で合否が決まり、センター試験では多くの大学が5教科7科目以上を課している。2015年度入試では、国立大学の約97.6%、公立大学の約63.1%が5教科型であった。2次試験は前期日程と後期日程がある。一部の公立大学では中期日程も行われるため、最大3回の受験チャンスがある。前期は2～3科目が一般的で、後期は科目数を減らした試験や、小論文、面接、総合問題などがある。

1・2年生のみなさんは、受験勉強は3年生になってから始めるもの。と思っている人もいるかもしれませんが、まだまだ自分には早いと思いませんか。しかし、AO入試や推薦入試を受ける場合、入試まで1年を切っています。時間は待ってられません。受験にフライングはありません。早く始めた人ほど「合格」に近づくことができるはずですよ。

最後に、読書の秋、漫画を読むことで学習の理解を深めませんか。図書室で借りられる、学問に関する漫画本を紹介します。

◇国語◆

『ちはやふる』…百人一首部の青春物語
『あさきゆめみし』…漫画版源氏物語

◇数学◆

『はじめアルゴリズム』…数学的才能に溢れた少年が数学オリンピックを目指す物語

◇英語◆

『ONE PIECE』『DORAEMON』
『DEATHNOTE』『Nodame Cantabile』
など、お馴染みの漫画が英語で書かれています。

◇生物◆

『はたらく細胞』…人間の体内で起こっている現象が描かれている

◇日本史・世界史◆

『日本の歴史』『世界の歴史』シリーズ
漫画の利点は、絵があることによって視覚的に情報を理解できることです。図書室には職業に関する本や漫画もあります。この機会に足を運んでみてはいかがでしょうか。